

(3) 味噌曲輪整備計画

ア. 味噌曲輪の概要

① 曲輪の性格

今日に伝わる曲輪の名称、また「甲州古城勝頼以前図」には「蔵屋布（敷）」と注記されることから、貯蔵施設・倉庫等が設けられていたと考えられる。

② 現状地形

現状の地形は北及び東西を土塁で囲むやや台形状の曲輪で、南に西曲輪北柵形虎口に伴う馬出が高まりとして残っている。かつては土塁の外側に堀が巡っていたと考えられ、低地として痕跡をとどめている。曲輪内部は近世に開墾され、石垣で区画する4段の耕作地となっている。

③ 発掘調査

発掘調査により、主に次のようなことが判っている。

- ・曲輪内の地形は北から南に向かう緩斜面であった。
- ・西土塁は3時期の変遷があり、敷石を伴う門跡を発見した。
- ・東土塁は明確な変遷を捉えることができなかった。
- ・角馬出の石塁の平面規模が判明し、石列には織豊期を含め3時期の変遷が考えられる。
- ・武田期の石積（2時期以上か）を確認した。
- ・角馬出の下層に三日月堀と推定される遺構を発見した。
- ・曲輪内では建物跡や井戸跡、石列、溝跡、土坑等を発見した。今後の調査により新たな建物跡が発見されるものと考えられる。



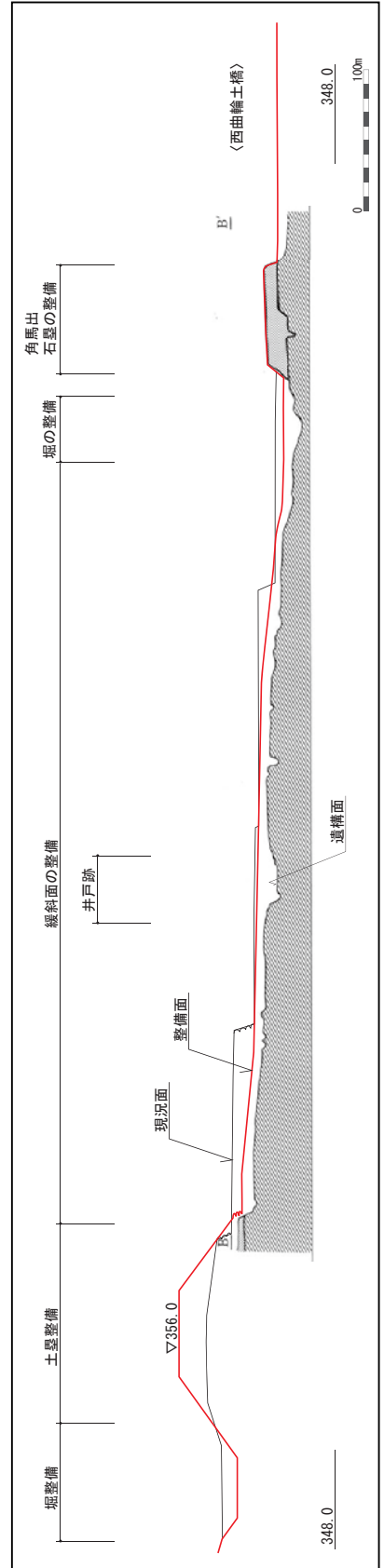
角馬出（発掘調査時）



角馬出の石列（発掘調査時）



味噌曲輪遺構配置図 S=1:1000



味噌曲輪計断面模式図 S=1:500